

イワガキ養殖技術開発試験

- イワガキ養殖試験 -

廣澤 晃

本県沿岸海域には天然イワガキが生息し、一部は漁業資源として活用されている。一方、イワガキは冬のマガキに対して、夏の商材であることから、新たな養殖種として期待される。このため、本県海域の漁場特性に適したイワガキの養殖技術を開発することを目的に平成16年度より当試験に取り組んでいる。ここでは、県外産種苗を用いた養殖試験の結果を報告する。

材料と方法

鳴門地区の内の海及び粟田地先で漁業者の協力を得て養殖試験を実施した。内の海では、マガキ養殖用筏（写真1）で、粟田地先では延縄式の養殖セット（写真2）を設置しておこなった。養殖用種苗としては秋田県産のイワガキ種苗を用いた。イワガキの養殖試験は、イワガキ稚貝の付着した採苗器（ホタテ貝殻）をロープに60cm間隔で挟み込んだ種苗ロープ（写真3）を養殖セットに垂下しておこなった。

結果及び考察

内の海の養殖試験では、2004年種苗は、2004年5月14日に養殖を開始し、2004年10月28日（5ヶ月後）に平均殻高60.8mm、2005年3月18日（10ヶ月後）に同81.5mm（写真4）、2006年3月25日（1年10ヶ月後）に同124.5mm（写真5）となった。また、2006年3月25日時点での殻付重量は平均285g（61～763g）となり、約4割（38%）の貝が出荷の目安とされる300gサイズ以上となった。（図1～3）

同様に2005年種苗は、2005年6月21日に養殖を開始し、2006年5月31日（11ヶ月後）に平均殻高73.8mm、2007年4月12日（1年10ヶ月後）には同120.2mmとなった。また、2007年4月12日時点での殻付重量は平均187g（55～368g）で、出荷目安の300g以上は5%に留まり、ほとんどの養殖貝で出荷サイズに達していなかった。なお、2004年養殖種苗に比べて成長が遅れた理由は、5月31日から9月20日までの約4ヶ月間、ほぼ無給餌で陸上水槽で管理していたため、その間、成長が停滞したことが影響したと考えられる。（図1～3）

粟田地先の養殖試験では、2004年種苗は、2004年6月2日に養殖を開始し、2004年9月14日（3ヶ月後）に平均殻高38.1mm、2005年3月28日（10ヶ月後）に同68.6mm、2005

年7月14日（1年1ヶ月後）に同87.0mmとなった。（その後は欠測）

同様に2005年種苗では、2005年7月14日に養殖を開始し、2007年4月6日（1年9ヶ月後）に平均殻高114.7mmであった。

養殖イワガキの成長は、2004年、2005年ともに内の海より劣った。（図1）

なお、2004年、2005年種苗の養殖試験では、養殖用種苗の入荷は何れも3月下旬であるが、養殖開始（沖だし）まで2～3ヶ月を要した。この間、陸上水槽で無給餌で管理していることからイワガキの成長は停滞した。鳴門地区のイワガキ養殖において、養殖開始2年後（3才貝）の出荷を目標にするためには、種苗入手後、間断なく養殖を開始することが重要である。



写真1 内の海（マガキ養殖筏）



写真2 粟田地先（延縄式養殖施設）

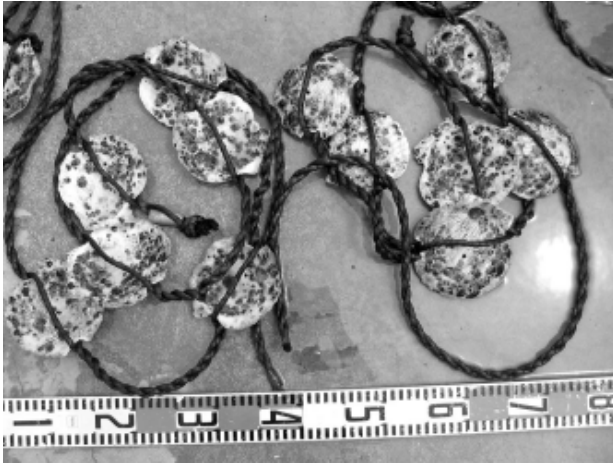


写真3 養殖用種苗ロープ

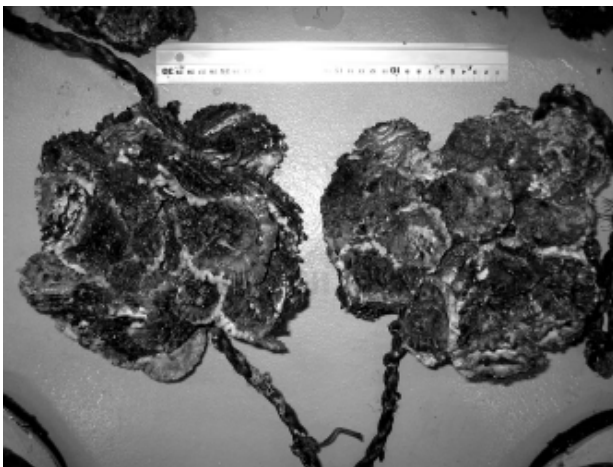


写真4 2004年種苗の2005/3/18時点の養殖貝
(平均殻高=81mm)



写真5 2004年種苗の2006/3/25時点の養殖貝
(平均殻高=124mm)

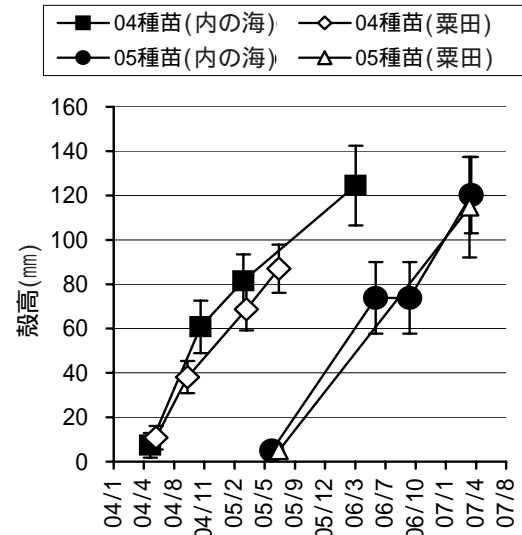


図1 養殖貝の殻高の推移

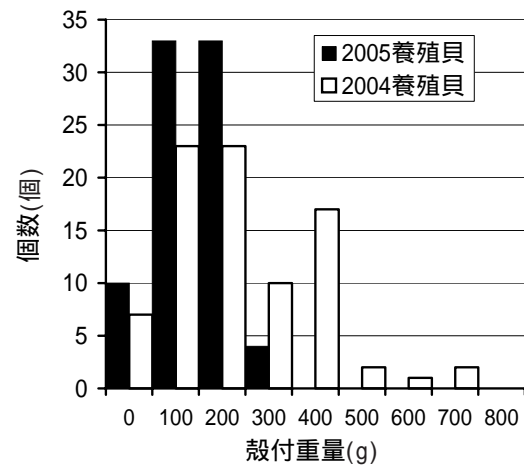


図2 養殖貝の重量組成 (内の海)
(2004年種苗-2006/3/24, 2005年種苗-2007/4/12
時点の養殖貝)

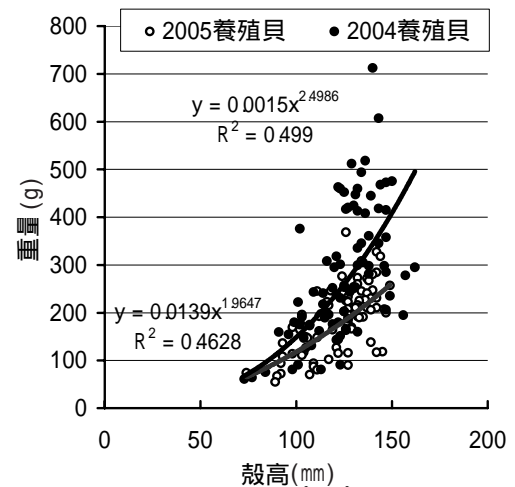


図3 養殖貝の殻高-重量関係 (内の海)
(2004年種苗-2006/3/24, 2005年種苗-2007/4/12
時点の養殖貝)